

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(8月5日～8月11日)

2024年8月15日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルキヤノヴィチ空軍・防空軍司令官のイラン訪問(8月7日)

●ウクライナの無人機が領空を侵犯したとするルカシェンコ大統領の発言(8月10日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●ウクライナの無人機が領空を侵犯したとするルカシェンコ大統領の発言

・8月10日、ルカシェンコ大統領は、前日9日にウクライナからモギリョフ州東部に無人航空機(UAV)10機ほどが侵入したこと、ベラルーシ・ロシア両国の防空部隊によって全機を撃墜したこと、国防省及び軍参謀本部に対し、国家の安全をしっかりと保証するために然るべき措置を講じるよう指示したことを発言。

・同日、フレニン国防大臣は記者会見を開催し、ルカシェンコ大統領の指示により、ゴメリ州ゴメリ・モズィリ方面において兵力を増強している旨発言。

・11日、デムチェンコ・ウクライナ国境警備庁報道官は、ベラルーシ・ウクライナ国境方面でのベラルーシ軍の増派は確認されていない旨発言。同日、反体制組織「ベラルスキ・ハユン」も、9日のベラルーシ空軍機の発進時には、いかなる UAV も確認されていない旨発表。

・10日、ベラルーシ外務省は在ベラルーシ・ウクライナ大使館臨時代理大使を召致し、本件につき抗議。当地ウクライナ大使館が再発を防止できない場合には、当地ウクライナ大使館の存在意義につき問題提起する旨警告。また、12日には当地 EU 代表部臨時代理大使も召致し、撃墜した UAV の構成要素に EU 製品があったことを指摘した上で、再発防止のために EU からウクライナに働きかけるよう呼びかけ。

(8月10日 大統領府、国防省、11日 ウクライナ・メディア「ユニアン」、反体制組織「ベラルスキ・ハユン」)

【外交】

●ウクライナ軍による露西部クルスク州への攻撃に対するベラルーシ外務省声明

・我々は、露クルスク州でここ数日起きている事態に大きな懸念と苦痛を感じている。

・我々の地域での紛争を激化させる、この無意味な火遊びに乗り出したウクライナ武装勢力の行動を強く非難する。民間人、平和な村や町への攻撃、インフラへの標的を定めた損害、そしてテロ行為は、我々にとって容認できないものである。

・我々は、クルスク州の住民への支援と連帯を表明する。犠牲者の家族及び親しい人々へ哀悼の意を表し、負傷者の一日も早い回復を望む。

(8月10日 外務省)

●各国による対ベラルーシ制裁の拡大

今次制裁は、2020年の大統領選挙から4年を迎えるにあたって導入されたもの。

(1) 欧州連合(EU)による制裁

・EU は、ベラルーシの 28 人を、抑圧と人権侵害に関与したとして制裁対象に追加。

・内務省組織犯罪・汚職対策総局(GUBOPiK)局長及び次長ら、矯正収容所の所長ら、各地の裁判官及び検察官等が制裁対象となる。

(2) 米国による制裁

・米国は、ベラルーシの 19 人と 14 の企業を制裁対象に追加。

・軍事資産の生産やロシアへの商品の積替えによってウクライナ侵略を支援したとして、ベラルーシの金属加工会社や貨物輸送会社、民間航空会社及びその代表らが制裁対象に追加された。さらに、ルカシェンコ大統領の専用機である Boeing 767-32KER も制裁対象となった。

(3) 英国による制裁

・英国は、ベラルーシの 4 人と 3 つの企業を新たに制

裁対象に追加。

・制裁対象となったのは、収容所の所長及び元所長、ロシアの軍事産業部門での使用を目的とした製品を製造する工作機械製造会社、ベラルーシの国防分野で事業を行う政府関連企業。

(4)カナダによる制裁

・カナダは、ベラルーシの 10 人と 6 つの企業を制裁対象に拡大。

・制裁対象となったのは、「不正操作された 2020 年の大統領選挙後のベラルーシにおいて、重大かつ組織的な人権侵害を行った」個人（ルカシェンコ大統領の三男ニコライを含む）と、平和的な抗議やストライキに参加した従業員を脅迫・解雇した企業（国営農機工場「ゴムセリマシュ」他）。

（8 月 5 日 EU 理事会、9 日 米国財務省、英国政府、カナダ政府）

●シェイナ・ポーランド外務次官は、ベラルーシのナンバーの乗用車乗入禁止措置導入の可能性を否定

シェイナ・ポーランド外務次官は、同国ラジオ局「ラジオ・ポルススキエ」の番組において要旨以下を述べた。

・ルカシェンコ体制と一般のベラルーシ人は別。体制に打撃を与えるべき制裁によって一般のベラルーシ人に影響が出るようなことは望んでいない。

・貨物輸送も含めてポーランド・ベラルーシ国境を閉鎖してしまうのは、ベラルーシ・ロシアだけでなくポーランドの経済的利益にも有害。

・ベラルーシとの国境では、不法移民の流入の減少という好ましい傾向も見られる。ミンスクにおいて事態の「解釈の見直し」が生じたのではないか。

・ポーランドはベラルーシに対し、アンジェイ・ポチョブト氏の釈放、ポーランドの国境警備兵を刺殺した犯人の引き渡しを引き続き求める。

（8 月 6 日 「ゼルカロ」）

【内政】

●8 月 9 日現在の政治犯の数は 1,385 人

（8 月 9 日 人権団体「ヴァスナ（春）」）

【軍事・安全保障】

●ベラルーシ・イラン両国国防省間の相互訪問

・7 月 31 日、イラン国防軍需省の工兵部門幹部がベラルーシに来訪。工兵関連分野での協力推進の見通しにつき協議した他、ベラルーシ軍地雷対策センターを視察。

・8 月 7 日、ルキヤノヴィチ空軍・防空軍司令官がイランを訪問。ムサヴィ・イラン軍総司令官、ヴァヘディ・イラン空軍司令官と会談した他、イラン空軍の教育機関等を視察。

・ルキヤノヴィチ司令官のイラン訪問に関し、イラン側メディアによれば、イラン側は、反制裁・反米・反北大西洋条約機構（NATO）といった文脈において、軍用機材の開発・生産という分野におけるイラン側の知見や、ウクライナにおける戦訓等のベラルーシ側の知見をそれぞれ共有することを強調し、ベラルーシ側も、イランとの関係を重視していることや、イラン空軍との防衛・軍事にかかる分野における関係進展への関心を表明。（7 月 31 日 国防省、8 月 7 日 国防省、「ゼルカロ」、「ポジルク」、Reform.news）

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

（8 月 5 日～8 月 11 日）

・リトアニア国境警備局は少なくとも 1 人を阻止。

・ラトビア国境警備隊は少なくとも 62 人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも 279 人を阻止。

（8 月 6 日～8 月 12 日 「ポジルク」）

●2024 年上半期の貿易高

・2024 年上半期の貿易高は 415 億 6,150 万米ドル（うち輸出：190 億 810 万米ドル、輸入：216 万 5,340 万米ドル）。前年同期比 103.8%。

（8 月 5 日 国家統計委員会）

【抗議勢力の動き】

●2020 年の大統領選挙後の抗議活動開始から 4 年を記念した集会の欧州各地での開催と、各国による支持の表明

・8 月 9 日、リトアニア、ベルギー、米国、ジョージア、ポーランドでそれぞれ、ルカシェンコ政権に反対し、自

由を訴えるベラルーシ人らが集会を開催。

・同日、リトアニア、スウェーデン、フィンランド、ノルウェー、ラトビア、ポーランド、エストニア、米国、英国、ウクライナ、ドイツ、カナダ、アイルランド、チェコ、オランダ、スロベニア、オーストリア、アイスランド、イタリア、フランス、ジョージア、オーストラリアの各国代表及びEU議長等から民主勢力への支持が表明された。

・また同日、ナウセダ・リトアニア大統領、米国・カナダ・EU・英国政府（共同声明）、ビルストルム・スウェーデン外相、ドイツ外務省、ギルバドゥティル・アイスランド外相、カービー米国家安全保障会議戦略広報調整官らが、それぞれ、ベラルーシの自由のために闘う人々への支持や政治犯の解放等を訴えた。

（8月9日 チハノフスカヤ氏公式サイト、「ゼルカロ」）

（了）